

～ 別院 だ よ り ～

本 願 力



- 神奈川連合組子ども会 IN 本願寺横浜別院 -

発行 真宗大谷派 本願寺横浜別院

〒234-0051

FAXTEL 横浜市港南区日野一―十一八
 (〇四五) 八四一―三四三四
 (〇四五) 八四一―三四二八

(http://www.yokohama-ootani.com)

いつも仏事に思うこと

輪番 竹部俊恵

毎年、孟蘭盆会をお迎えすると、仏教行事の中で、お盆ほど生活の中に浸透している行事はないと思います。孟蘭盆会は、目連尊者の話を通して、私にまで届けられた、いのちの道のりをたどり、そのいのちのはたらしきそのものが、私に教えとしてあることを、思い出させ、そのことに気付かず過ごしているわが身を恥じる行事だと、私はいただいています。

私のお盆は、自坊の境内に墓地がありませんので、ご門徒さんと墓経を読むことはありません。ただ、町の共同墓地にあるわが家の墓にお参りをし、この共同墓地の中心にある、井波別院瑞泉寺を創立された、本願寺五代緯如上人のお墓にお参りをします。さらに、先の戦争で亡くなられた戦没者の納骨堂と、瑞泉寺御歴代の灰塚に参詣し帰るのです。帰宅後は、すぐに本堂で家族全員、孟蘭盆会のお勤めをするのが恒例です。お勤め後、いつもつくづく思うことがあります。それは、墓参は確かに具体的な方々を通じた、いのちから、私が悲しまれていると言うことです。つまり、具体的な名前(法名・俗名)がある、顔の見えるいのちが、私に向き合ってくださることだったと思わされるのです。例えば、私の場合なら、自坊歴代の方々、緯如上人、瑞泉寺の御歴代、そして、戦争で亡くなられた近所の方々から伝えられてくる、生き様言葉、思いなどが、私にはたらしきかけてくるのです。ところで、自坊のある南砺市には、世界遺産に登録された合掌づくり集落で知られる、五箇山があります。厳しい自然環境の中で、お念仏の教えを聞き続けている所です。私の知り合いに、そこに住み、観光協会に勤める四十代の女性がいます。彼女が、お盆の時にフェイスブックに、こんな文章を書いています。「昨日、じいちゃんの新盆のお墓参りがありました。皆でお参りして、お寺様にお勤めもしていただいて、自宅へ帰ろうとしたら、また違う場所でお寺様がお経をあげていらっしゃる様子。ふと足を止めたら墓地のはずれの無縁墓の所でした。今では彫りも読めない小さな小

な石塔がいくつもありません。お寺様に尋ねましたら『おそらく一家一族で北海道へ渡った人たちのものではなからうか』とのことでした。明治初期に北陸からたくさんの方が開拓民として、北の大地へと向かわれました。わが家もその時期に長男一家は、家屋を四分割して売り、土地は残った何番目かの一家に譲り、北海道へと渡って行つたと、亡くなったじいちゃんから聞きました。そのころ移民された方、また、この地に残った方の御苦労たるや、私なんぞの想像の域をはるかに超えています。このお盆を機会に『今があるのは、過去の人々のお陰である』ことを改めて認識し、家族はもちろん、全ての人に感謝しなければと思ひました。過疎、過疎と言われている昨今ですが、いろんなことを知っておく必要があると思うのでした。・・・そう言うところで、また、大概、スポーンと忘れてしまうがやけど・・・この方は、お盆の墓参りの場で、ほとほと何も知らずに、また、気付かずにいる、現在の私と、先に亡くなっていかれた方の生き様としてのご苦労が、つながつていることに愕然としたのです。「私なんぞの・・・」は、わが身を恥じ入る叫びでしょう。この言葉は、昨今よく聞く「癒される」などと言う、上から目線の善人ぶった言葉とは全く違う、ありのままの今の私を知らされた慙愧の言葉でしょう。しかも、そう慙愧しても、「そう言うことで、また、大概、スポーンと忘れてしまうがやけど」と、またすぐ元の木阿弥となってしまう一面も教えられていくところが、

膝を打たせます。仏事は、いつも私にはたつきかけられる如来様と諸仏のご苦労の姿でした。合掌

儀式は浄土の存在の表現
別院声明儀式研修会（八月四日）開催

講師である竹橋太先生には、「真宗の儀式を考える」をテーマに六年間に亘り、講義をいただきました。今回で最終回となり、仏教の儀式は「仏との出会い」を示していることや仏の存在、浄土の存在の表現であることを丁寧に説明いただきました。

まとめとして、儀式の形そのものが『念仏』『阿弥陀との出会い』を表現している。執行者の気持ちと関係なく儀式が仏の説法、仏の存在の表現である。しかし執行者には「聞の称名」という大切な言葉がある。仏が「化身土」に、つまり方便化身としてまで現われてくださったことへの感動が儀式における感動の意味である。とお話いただきました。

参加者が、頭を縦に振ってうなづいている様子。象的で



楽しかったね。横浜別院！

神奈川連合子ども会（八月十八日・十九日）

二〇一四年から発足された神奈川連合子ども会が別院を会場に一泊二日で開催されました。参加者は、子ども十八名、スタッフ二十四名で、合計四十二名でした。約一年に亘る綿密な打合せにより、様々な子ども達が喜びそうな企画を実施しました。本堂での開式後、別院探検から始まり、スイカ割り、ハヤシライス・デザート作り、銭湯で入浴、大谷幼稚園庭での花火、お菓子パーティーなど日常で味わえないことがたくさんありました。別院内を元氣いっぱい走り回る姿が見られ大変嬉しくなりました。



二日目は、早朝から「赤本くん」を握りしめおあさじをみんなと一緒に勤めし、朝食後、水遊びをしました。また、メインイベントである流しそうめんを輝かせ

る子ども達が今か今かと始まるのを待ちわびていました。流しそうめんが始まると一斉に竹を伝って流れてくるそうめんを思い思いに食べていました。

午後二時に閉会、解散となりましたが、二日間の思い出を色ペンを片手にお絵かきとして表現していました。子ども達にとつて、幼少時代の貴重な体験として記憶されていくことでしょう。

最後になりましたが、横浜別院を会場として利用していただきありがとうございます。

暁天講座（初めての親鸞Ⅱ）

（八月二十二日・二十三日）

今年で四年目になります暁天講座もだいぶ地域の方々に認知されるようになりました。地域の方々に参加していただけることが「開かれた別院」としての役割だと強く思うからです。

一日目は、滋賀県大津市より沙加戸弘先生をお招きして、お話をいただきました。内容は「親鸞聖人の絵解き法話」で、「親鸞聖人伝絵」の親鸞聖人が九歳で得度されることから、九十歳の生涯を閉じられるところまでを絵解きされました。

絵解き法話という聞きなれない言葉かもしれませんが、描かれてある絵を解いて仏法を説かれるもので、節談説教のような感じですか。沙加戸先生の危機迫る喋り口に参加者は終始引き込まれていました。

二日目は、今、女装をする東大教授とし

て有名な安富歩先生をお招きしてお話をいただきました。内容は、「私が『女装』するのは方便か？」の講題のとおり、大方が



予想していた女装姿で登場され、大学卒業後の銀行員時代の話から始まり、大学で攻められていたが、銀行員時代のバブル崩壊までのお話や、その後様々な分野で思考を重ねた結果、親鸞聖人の教え、浄土真宗の教えに行き

着いたというお話は感動的でした。安富先生は、「今を生きる親鸞」等多数の本を執筆されていますので、ぜひ参加されなかった方も書籍を通して、お話に触れていただきたいと思えます。

早朝の六時三十分からの開始にも関わらず、二日間で一〇〇名以上の参加をいただけたことには大変感謝しています。行事は参加する人がいて、初めて成り立ちます。来年もどのような形がよいのかを検討して、企画させていただきます。



院議会開催（二〇一四年度決算等）

六月十八日に院議会（通常）が開催されました。

主な議案は、「常議員の互選について、二〇一四年度決算、二〇一四年宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌特別会計決算、二〇一五年予算（案）、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌特別会計収入支出第二次補正総予算（案）、横浜別院宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌特別会計終了に伴う余剰金の処分に ついて」であります。慎重な審議の上、全議案、全会一致で承認可決されました。

【常議員】大山 昭久（横浜別院門徒）

古田龍太郎（横浜別院門徒）

「任期」

二〇一五年四月一日～二〇一八年三月三十一日

赤羽別院（赤羽地域教化センター）視察

（八月三十一日）

愛知県西尾市にあります岡崎教区赤羽別院に神奈川教化センター設立準備委員会のメンバーによる視察が行なわれました。これは、二〇一六年春を目標に本願寺横浜別院・神奈川教化センターを立ち上げる準備を進めるためのものです。

視察の内容は次号に掲載させていただきます。



二〇一五年度第三回 横浜別院声明儀式研修会のご案内

【日時】十月一日(木)午後一時半～午後四時半

【対象】神奈川四ヶ組女性寺族

【講師】佐伯朋子師(東京五組成満寺住職・准堂衆)

【内容】本堂の荘厳について

各仏具の名称及び荘り方、

【会場】横浜別院(横浜市港南区日野一・十・八)

【参加費】無料

【持ち物】「大谷声明集上」、「真宗の儀式」等

別院声明儀式研修会としては、初めての試みとして神奈川四ヶ組女性寺族対象の研修会です。ぜひお誘い合わせの上、ご参加下さい。

詳細については、後日ご案内をいたします。

公開講演会においでください。

【日時】十月二十日(火)午後一時半～午後三時

【講師】今井雅晴氏(筑波大学名誉教授)

【テーマ】「親鸞聖人と報恩講」

【会場】横浜別院本堂

【参加費】無料

今井先生は、『下野新聞』において、『下野と親鸞』を一年半に亘り連載され、のちに『下野と親鸞』として書籍化もされました。

『親鸞と東国』というテーマで、神奈川県における親鸞聖人の足跡を研究されています。

お誘い合わせの上、お気軽にご参加ください。

行事予定

〈九月〉

定例法話 午後一時半より

九日(水) 湘南組萬福寺 小笠原 聰 師

二十八日(月) 横浜別院輪番 竹部 俊恵 師

同朋の会の集い 午後一時半より

十八日(金) ※座談会を中心に今後の進め方を話し合います。

秋季彼岸会法要 午後一時半より

二十日(日)～二十二日(火・祝)

【法話】 佐賀枝夏文 師(大谷大学名誉教授)

〈十月〉

定例法話 午後一時半より

九日(金) 横浜組良泉寺 本郷 成道 師

二十八日(水) 横浜別院輪番 竹部 俊恵 師

※十月の同朋の会の集いはお休みです。

おみがき 午前十時半より

十二日(月・祝) ※本堂の仏具を磨きます。軽食あり。

報恩講

十八日(日) 午後二時 初建夜・御伝鈔・法話

十九日(月) 午前七時 初展朝

午前十時半 初日中・法話

午後二時 結願建夜・御俗姓・法話

二十日(火) 午前七時 結願展朝

午前十時半 結願日中(御満座)

【法話】 稲垣一映 師(高岡教区法縁寺前住職)

編集後記

八月末になり、急激に暑さが和らいできました。むしろ、少し肌寒いような天候ですが、きつとお彼岸までは、気温が上がったり下がったりと繰り返すことが伺えます。

最近、すぐに「疲れた」という言葉を発する事が多くなったような気がします。「疲れる」を辞書で引いてみますと、体力や気力を消耗してその働きが衰える。くたびれる。という意味でした。

都会の喧騒を離れて、この夏は那須高原、伊豆、山梨県都留市へ旅行やキャンプに出掛けました。その場に足を運ぶだけで、あっという間にリフレッシュする自分がいます。きっと、人は自然の摂理の中で、山あり谷ありを繰り返して、決して一定ではない心身の状態を繰り返しているのでしょう。今年もあと四ヶ月。ぼちぼちとがんばっていきたいと思います。(家本)